

健康と光線

自著を出版

今般、株式会社ワニブックスより、健康に関する一般書籍として、「太陽を浴びれば、医者はいらない」(定価・本体1238円+税)を出版しました。出版の主旨は、一般読者を対象に、無料で出来る日光浴が健康を保つために欠かせないことを説明し、日光浴を通して紫外線を浴びる慣れ親しんだ生活習慣を取り戻して貰うことです。

行き過ぎた

紫外線バッシング

私が父の後を継いでサナモア光線療法の仕事に従事して三十有余年になります。この間を振り返って、前半の約十五年間は、「日光浴は健康の源」という古

くから信じられてきた言い伝えを抵抗なく素直に受け入れてくれた時代でした。しかし後半の約十五年間の間に、大手化粧品会社が紫外線

ら、食品では必要量を補うことが極めて難しいビタミンDが生成されませんから、ビタミンD欠乏症になるのは必定であり、

太陽を浴びれば、医者はいらない

株式会社 ワニブックスより出版

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

て日焼けすることは光老化を促すお肌の天敵であり、挙句の果ては皮膚癌になるとの脅しを常識の域にまで押し上げました。この余りにも行き過ぎた紫外線バッシング、換言するなら美白ブームに惑わされて、紫外線をちょっとだけ浴びてちょっとだけ日焼けすることさえ避けるな

本書の骨子

本書の骨子は、多大な恵みをもたらしてくれる日光浴の意義について述べ、近年になって誕生したUVカットに関連する数多くの商品の広告宣伝を通して作

が、私の宿願だったからです。

ご購入と

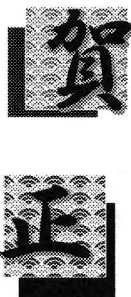
ご推奨のお願い

株式会社ワニブックスのご支援があって、出版に漕ぎ着けましたが、内容の大半は本紙に記述したものと重複しています。そのため本紙をご購読頂いてい

られた紫外線に対する偏った見解を是正する点にあります。要は適度な紫外線を浴びて日焼けする功罪を論ずるなら、日焼けしてビタミンDが生成される一事を取っても功は自明であるのに、功は無視して、日本人ではありもしない皮膚癌を持ち出してまで罪をいたすに強調することで恐怖心を煽る今の時代の

るサナモアご愛用者には目新しいことは載っていないかも知れませんが、読んで下されば必ずお役に立つと自負していますので、書店で本書をご購入頂き読んで欲しいと思っています。またお知らせの方にご購読下さるようにご推奨下されば幸いです。

拙著が一冊でも多く世に出ることによって、自然の成り立ちについての理解を深め、日光浴の天恩を見直す一助になり、多くの人々が日々の暮らしに日光浴を取り入れ、健康保持に役立てて下さることを願っています。



平成二十三年 元旦

株東京光線療法研究所
サナモア光線治療院

(五日より営業します)

一病息災

一病息災

排尿障害 ～前立腺肥大と過活動膀胱～

サナモア光線治療院

院長 医学博士 宇都宮 正範

排尿と泌尿器系

一般に健康成人は、日中に五〜八回、夜間にゼロ〜一回排尿します。このように、排尿という行為が、日常生活上切っても切り離せない行為の一つであるがために、多くの方を悩ます原因となることもしばしばで、排尿に関連した症状やトラブルには、排尿時痛、血尿、頻尿、残尿感、尿失禁、尿閉などが挙げ

症 例：75歳、男性。

主 訴：トイレが近い。排尿時の不快感。残尿感。

起始・経過：以前から上記症状を自覚していたため、近医にて精査を施行したところ、前立腺肥大と診断。薬物治療が始まるも、なかなか症状の改善を認めなかったため、自宅にて、サナモアで治療を行った。

治 療：側臥位にて照射。

下腹部(BD)、腰部(BD)、会陰部(BD)各30分以上。足裏(AB)15分。

経 過：治療を開始して一か月が経過した頃、排尿時の不快感は減少。半年後には、尿の流出に勢いを認め、残尿感も少なくなってきた。

現在、通院しながら、毎日サナモア光線療法を行っている。

男性に見られる 排尿障害

前立腺は、膀胱の出口で、尿道を囲むように位置し、男性のみに存在する器官ですが、年齢と共に肥大傾向となるため、尿の流出不良を引き起こします。特徴的な症状は、「尿が出始めるまでに時間を要する」「出始めから終わるまでに時間がかかる」「排尿を済ませたにもかかわらず出きつた気にならない」などで、進行すると、残尿量が増加し、膀胱に尿が異常に貯留し、尿閉、水腎症をきたすこともあり、可及的に尿道カテーテル留置が必要となります。

女性に見られる 排尿障害

女性の場合は、加齢とともに骨盤底筋の力が低下することや尿道が短いことから、尿失禁をきたしやすいことが特徴で、重い物を持ち上げた時などに尿が漏れる腹圧性尿失禁が最も多く、

急に起こり、我慢できない強い尿意切迫感から尿漏れを起こす切迫性尿失禁が続きます。

特に、切迫性尿失禁の原因の大半を占める過活動膀胱は、2001年に提唱された疾患で、本邦の患者数は800万人と推定されます。自分の意思とは関係なく、膀胱の排尿筋が勝手に収縮したり、過敏な働きをすることによって起き、その発生機序は、神経系障害、骨盤底筋の障害、原因不明の三つに分けられています。

病氣と光線療法

排尿障害と言っても原因は様々で、男女の違いによって、その様相も全く異なります。今回提示した症例は、男性特有の前立腺肥大ですが、女性に多い過活動膀胱を含めた尿失禁に対しても、サナモア光線療法で一定の効果も期待されますので、排尿に関連したトラブルでお困りの方は、是非一度サナモアを試して頂きたいと思っています。

謹賀新年



サナモア/便り

vol.44

宇都宮 正範

サナモア光線治療院 開院から十周年

西暦二〇〇〇年に開院したサナモア光線治療院は、二〇一〇年九月で、ちょうど丸十年が経ちました。これまで、延べ一〇九四名の患者さんを治療してきた治療室の壁に付いた汚れを見て、光線療法を必要としている大勢の方がいることを再確認するとともに、紫外線バッシング以来、逆風にさらされている現状に、一矢を報いるには、まだ至っていないと感じております。

ところで、現在、治療院に通われている方は、多くがサナモア愛用者からの御紹介で、全く初めての方が、当院の看板を見て入ってくるということは、ほとんどありません。開院当初、宣伝目的もあり、新聞に折り込み広告をはさんだことがありましたが、その効果はほとんどゼロに等しく、数人の方に来て頂

いたのみに、長続きもせず、治療の効果が出る前に、来なくなってしまう。このような経験からも、光線療法の普及には、愛用者の方からの御紹介が欠かせないという思いが強くなり、もし、病院医療で満足な成果が上がり、不安をかかえ、お困りの方がいらしたら、是非、声をかけてみて下さい。

これからは、光線療法が、医療の一部として、確固たる地位を築けるよう努力することは無論のこと、これからの十年に何ができるのか、また我々がどのようなメッセージを発信すればいいのかについて考え、光線療法のさらなる普及に全力を注ぎたいと思います。

第十六期

サナモア光線治療師

養成講座のお知らせ

昨年に引き続き、本年も、サ

ナモア光線治療師養成講座を六月末に開講する予定でおりますので、光線治療院の開業をご検討されている方やサナモア光線療法について勉強したいとお考えの方は、サナモア光線治療院(〇三―五七五九―三七二〇)までご連絡下さい。

なお、日程等の詳細につきましては、次号に掲載させて頂きます。

募集

サナモア光線治療師

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、お問い合わせください

サナモア光線治療院

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-23-11

TEL (03) 5759-3710

FAX (03) 5759-3720

第三十四回 「光と熱研究会」 のお知らせ

医療に関連した話題の講演や治療例の報告を中心とした研究会を開催していますので、一般のご愛用者の方も是非ご参加下さい。なお参加は無料です。

日時：四月二十三日(土)

午後二時三〇分

場所：サナモア光線治療院
三階会議室

第22回

日本療術学会から

愛媛県 松山全日空ホテル

平成22年11月21日～22日

シンポジウム

「保健と光線療法」


 財団法人全国療術研究財団
 光線部門
 宇都宮光明

光線療法の背景

光線療法の起源は、先人が太陽光線の恵みを霊感的、直感的、体験的に会得し、日光療法の効能、効果を信じたことにある。実際、現代医学の祖と仰がれているヒポクラテスも医療に日光

療法を取り入れている。ところで保健と光線療法であるが、光線が保健面で果す効用について、紫外線、可視線、赤外線のスベクトル別に述べる。

紫外線的作用

太陽光線の紫外線を浴びてさえいれば、保健面で欠かせないビタミンDは過不足なく生成されるが、浴びないと容易にビタミンD欠乏症になるのが自然の摂理である。ビタミンDは抗クル病効果で発見されたため、カルシウム代謝調節ホルモンと位置付けられてきたが、その後に細胞のビタミンD受容体を介して細胞分化を誘導する作用が発見された。このビタミンDの二大作用に併せて、癌予防効果について文献的に考察する。

[1] カルシウム代謝調節ホルモンとしての作用

ビタミンDはカルシウムの吸収を促し排泄を抑制するため、ビタミンD欠乏状態になると不

足するカルシウムを補うため副甲状腺ホルモンのパラソルモンが働いて骨吸収を促し、クル病や骨粗鬆症になる。この際、骨から過剰に溶出したカルシウムは血中から細胞内に移行し、細胞内カルシウム濃度が上昇するため、細胞外カルシウム濃度との間の一万分の一の濃度差を保てなくなる。この状態をカルシウムパラドックスと呼ぶが、高血圧、動脈硬化、糖尿病、免疫異常だけでなく、悪性腫瘍の危険因子になる。

[2] 細胞分化誘導作用について

ビタミンDの受け皿になるビタミンD受容体は、小腸粘膜上皮細胞、副甲状腺主細胞、造骨細胞、腎臓の遠位尿管細胞、脾臓、下垂体、甲状腺、皮膚、胃、肝臓、胸腺、脳、骨髄、軟骨、胎盤、悪性腫瘍細胞など全身の組織、臓器に広く分布しており、それぞれの細胞の分化を誘導する。特に悪性腫瘍細胞では、細胞の増殖を抑制し正常細胞への分化を誘導する作用が示唆され注目されている。

[3] ビタミンDの癌予防効果

紫外線被曝量の多寡と癌予防効果についての研究は、1980年にガーランドが乳癌と大腸癌の罹患率が被曝量の多い地域で低く少ない地域で高いのは、ビタミンDが癌を予防すると報告したのを嚆矢とする。その後、卵巣癌、前立腺癌、悪性リンパ腫、膀胱癌、食道癌、腎臓癌、肺癌、脾臓癌、直腸癌、胃癌、子宮癌の罹患率との間にも同様な傾向が認められ、大腸癌ではほぼ二倍になると報告された。また皮膚癌の一種の悪性黒色腫では、1982年にショウらが日光を浴びない屋内労働者は屋外労働者の二倍発症すると報告している。なおこれらの癌予防効果の報告で重視されているのが前述したビタミンDの作用である。

可視線的作用

生命には光受容器を介して覚

醒と睡眠の一日のリズムを24時間同調させる体内時計がある。これを概日リズムと呼ぶが、光が体内時計の中枢の視交叉上核を経て松果体ホルモンのメラトニンの分泌を抑制することで、活動に適した日中のリズムが始動する。この状態が十五時間前後続いた後にメラトニンの分泌が増し、休息や睡眠に適したリズムになる。また心と体のバランスを保ち精神を安定させるセロトニンはメラトニンの前駆物質のため、分泌量が増し気分を爽快にして抑うつ状態やうつ病を改善する効果が期待できる。

赤外線的作用

従前から指摘されていた赤外線の温熱療法としての効果は、末梢循環の改善、心拍出量の増大、発汗促進、新陳代謝の促進、筋緊張緩和、鎮痛作用などであるが、近年になって保健面で極めて重要な作用がある熱

(四ページからつづく)

ショック蛋白質が生成されることが明らかにされた。熱ショック蛋白質の遺伝子発現は細菌から哺乳類まで共通に見られ、細胞傷害から生体を防御する作用、NK細胞活性を始め自然免疫能を高める作用、生物の構成成分で生命機能を支配する蛋白質の品質を管理する作用がある。蛋白質の品質管理とは、蛋白質の構造上の間違いや変性を正して役割に応じて正しく働くようにすることであるが、この機能をシャペロン機能と言つため、熱ショック蛋白質を分子シャペロンと呼ぶことがある。

光線の

その他の作用

これまでの研究から、光線のその他の作用として、コレステロール値の低下、尿酸の排泄、新陳代謝の亢進、肥満の解消、炭塵肺の予防などに有用なことが報告されている。

一般演題

「脳下垂体腫瘍の

治療経験」



社団法人 神奈川県療術師会

海渡一二三

目的

患者は脳下垂体腫瘍の手術を先延ばしにして、光線療法を希望して来所したが、極めて短期間の治療で想定外の好結果を得たので、若干の考察と併せて報告する。

症例

「患者」62歳 女性。
「初診日」昭和61年6月26日。
「主訴」頭痛 嘔吐 めまい
歩行時のふらつき 左目のまぶ

たが開かない。

「現病歴」前記の症状で病院を受診、脳下垂体の良性腫瘍と診断され、手術のため頭髪を剃ったが、演者が行っている四台の光線治療器での治療を希望して来所した。

「既往歴」特記すべきことはない。

「初診時所見」カッラをかぶって、ふらつきながら来所した。左目のまぶたは閉じて開かない。手術を先延ばしにした理由を患者に尋ねたら、一言、怖いと答えた。なお患者は自宅で光線療法を愛用しているが、治療院での多灯照射を強く希望したので、脳下垂体腫瘍に伴う随伴症状が軽減することを期待して治療することにした。

療法ならびに経過

四台の光線治療器で四灯照射をした。カーボンはAとDで治療したが、二日目からBとDにした。照射部位は側臥位で前頭部から顔面と腰と臀部と膝に各30分、後頭部と腹と足裏に各30

分照射、次に仰臥位で左側頭部と腰部に右からと膝部に左から各30分、左右を替えて各30分照射した。また夜に自宅で光線療法をするように指示した。治療を始めて三日が過ぎた頃から、頭の痛みが取れ、左目が開き、嘔吐、めまい、ふらつきが改善したので、約二週間経過した時点で病院の再検査を受けたが、手術は経過を診て検討することになり、患者は大変に喜んで報告してきた。それから当院の治療を約一ヶ月間続け、後は自宅で続けるように指示した。

考案ならびに結語

脳下垂体腫瘍は良性腫瘍と考えて良く、ホルモン産生性腺腫とホルモン非産生性腺腫がある。ホルモン産生性腺腫は過剰に分泌されるホルモンによる症状で早期に診断されることが多いが、約7割を占めるホルモン非産生性腺腫は腫瘍が大きくなって、脳圧亢進に伴う頭痛や嘔吐、視神経や視交叉を圧迫することによる視野の障害や視力低下や眼球

運動の障害などの症状が出てから診断されることが多いとされている。

今回の報告例はホルモン非産生性の脳下垂体腫瘍であり、治療を始めて四日目に来所するまで三日間、当院と自宅で計六回の治療をしたところ、症状が明らかに改善した。そのため嫌がる患者を説得して同一医師の診察を受けさせたが、手術をせずに経過観察になったとの報告を受けたのである。演者は医師の診断について云々できる立場にはないが、症状の改善が経過観察につながったと考えている。なおホルモン非産生性腺腫の場合、脳ドックなどで無症状の段階で偶然見つかった腫瘍は、自然に縮小する自然退縮もあるため、手術をせずに経過観察に留めることが多いとされている。報告例は傘寿を越えたが、今まで症状の再燃はなく元気に過ごしているが、光線療法で治療力が向上して腫瘍が自然退縮で縮小した可能性もあるのではないかと考えている。

治験例報告

再発を繰り返す胃潰瘍を

サナモアで治療

神戸市 ウエノ光線療研

上野 健太郎氏報告

TEL 〇七八一三三二二五八

症例 58歳 男性 会社員

症状 四年前に胃潰瘍を患い、近医で薬物治療を受け、一か月ではば改善したが、それ以降、時折、みぞおち付近に痛みを感じるようになる。その都度、診察を受けていたが、悪性所見はなく、胃潰瘍の再発と診断され、治療を受けるも、再発を繰り返すことに不安を感じ、友人に相談したところ、サナモア光線療法を勧められ来所した。

療法経過 治療はBDカーボンで、腹部全体を20分照射後、集光器を使用し、上腹部(胃の付近)を30分照射。次に、上背部30分、腰部20分、ふくらはぎ10分、足裏20分、膝10分の照射を

治験例報告

サナモアで大腸癌の術後早期から治療

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子(旧姓前田)氏報告

TEL 〇九二五八一〇三九
五七二一五七三

症例 80歳 男性

症状 サナモア愛用者。排便の際に出血し、肛門周囲に痛みを認めたため、痔を疑い、自宅での照射方法(BCカーボンにて、

が過ぎた頃には、時折認めていた痛みもほとんど感じなくなる。その後、経過は順調で、胃腸症状は気にせず、毎日を通り過ぎるようになり、三か月後の診察では、以前の再発の時より回復が早いようだと言明された。それから、一年半が経過したが、再発もせず順調に経過しており、サナモアは手放せないと言っている。

全自動光線治療器

はつらつさんと
ジョイントカーボン

サナモアはカーボンの芯剤を完全燃焼させることで最も効果のあるスペクトルを含む光線を放射するように、正面からカーボンをぶつける正面発光式を採用しています。そのため手動式のサナモア7号器・8号器では照射時間が十分強で切れ、長時間の照射にはご不便をお掛けしてききました。この点を改良したのが全

なお、はつらつさんご使用の際には、安全性を保ち、事故を未然に防ぐため、ジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。使用上の注意は、「はつらつさん取扱説明書」をご覧ください。

検査で、切れ痔の他に、肛門より3cm奥に癌が見つかり、すぐに手術を受けたとのこと。今回、退院してすぐに、術後のサナモア照射方法について質問に答えた。

療法経過 治療にはBDカーボンを使用し、腹部全体、下腹部、肛門を照射すること。特に、患

部については、少しでも、長い時間照射するよう指示した。その後しばらくして、大腸に数個あったポリプの切除を実施。それ以降も、指示通りに、毎日、五時間近くの照射を続けているが、術後の経過は大変良好で、痛みもなく、再発もせず、元気に過ごしているようです。

治験例報告

子宮筋腫と乳腺症に急性虫垂炎を

併発したサナモア治療経験

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL〇四四一七三二五〇六七

症例 52歳 女性 栄養師

症状 48歳時に、病院の検査を受けて子宮筋腫と診断。子宮筋腫は徐々に大きくなり、下腹部の不快感、膀胱圧迫による頻尿等の自覚症状を認めたため、知人に相談したところ当院を紹介。乳腺症も指摘されていたことから、合わせて治療を開始した。

療法経過 治療には、A、B、Dカーボンを使用し、四台の治療器を用いた。始めに側臥位で、顔面、腰部、臀部、膝を各15分照射。次に、腹部と下腹部を30分。後頭部15分。足裏30分。次に仰臥位として、左右から乳房を15分、側腹下部を15分、膝側面を15分照射した。昨年五月から治療を開始し、本年六月まで

一年間継続し、下腹部の不快感

治験例報告

腰椎ヘルニア術後の痛みと

掌蹠膿疱症に対するサナモアの効果

福岡県大野城市

森川 嘉文氏報告

TEL〇九一五〇一三三八一

症例 41歳 女性

症状 二年前に腰椎ヘルニアの手術を受けていたが、十日前頃から、体動時の腰痛と右大腿背面の強い張りを感じて来院した。なお、三年前に掌蹠膿疱症の診断を受け、両手掌と足裏の皮がむけ、発赤した箇所も見られているが、効果がなかったため、現在、皮膚科の塗布薬は使用していない。

療法経過 骨格矯正後に、A、B

を含めた自覚症状は、ほぼ改善した。なお、経過中に、右下腹部痛を認め、病院で急性虫垂炎と診断されたため、当院にて、患部である右下腹部を重点的に二日間行ったところ、こちらも治療できたので合わせて報告する。

カーボンにて、両足裏と両手掌を各20分、膝、腹部、背部を各10分。両目、後頭部、上腹部(肝臓)を集光して各10分。Bカーボンに変更し、腰部と右大腿背面を各20分、30分照射。治療は週に二、三回。三回の治療で右大腿背面の張りは完全に認めなくなり、五回の治療で、腰痛は当初の1/5程度にまで軽減したが、寝返り時と起床時には、痛みが残っていた。六回目

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA(緑印)、B(赤印)、C(青印)、D(黄印)カーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともどもご愛用者各位の御信頼を戴き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことはご存じの通りです。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセットしたり、当研究所が独自に広めたカーボンの呼び名のA、B、C、Dや緑印、赤印、青印、黄印を勝手に流用したり、あたかもサナモアと同じと見せ掛けて販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる人をあざむく行為は断じて許されるものではありませんが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任は持たませんので呉々もご注意下さい。

なおカーボンについて疑問の点がありましたらお問い合わせ下さい。

(株)東京光線療法研究所

から、腰部と右大腿背面の治療を、BからAカーボンに変更。七回目の治療後、日常生活における寝返りや起床時の腰痛は、完全に消失した。また、手足の皮膚は、サナモアを始めてから盛んにむけ変わり、改善傾向にあったが、正常な部位に比べ、患部の皮膚だけ薄い状態がしばらく続いた。そこで十回目

両手掌の照射時間を30分に増やした。その他は、A、Bにて、膝、腹部、腰部、臀部、上腹部肝臓、両目、後頭部を各10分照射。それ以降、徐々に皮膚はむけなくなり、十五回程で厚さも正常な部位と同じになった。その後もサナモアを続けたが、腰、皮膚とも、本人も驚くほど経過良好である。

サナモア光線療法

愛用者の声

太陽を浴びれば
医者はいらない

医学博士
宇都宮光明

ガンをも防ぐ
ビタミンDが、
病気に負けない
心と体を作る!

週一回30分の日光浴で
免疫力がぐっと高まる!

アトピー・関節炎・インフルエンザ・花粉症・
冷え性・偏頭痛・更年期障害・うつ病は癒けない!
今日から適切に太陽を浴びれば健康になる!!

「太陽を浴びれば医者はいらない」を読んで

盛岡市 矢幅 嘉子様

太陽光線のABCからZまで、平易な表現ながら、その一言一言から先生の切実で熱いメッセージが伝わってきました。実は、この夏、長男が、突然体調を崩し、フジタ太陽光線治療院にかけつけ、助けて頂いたのですが、その後、伺った際に「太陽を浴びれば医者はいらない」というワニブックスより出版の本を薦められて読んだのです。改めて、太陽光線の恵み

光線の恩恵を正しく認識しなければなりませんね。そのために、益々、御活躍されますよう、心から願っております。

夫婦そろって毎日

サナモアを使っています

江戸川区 原田史郎様

政子様

私たちは、長年にわたり、夫婦で毎日サナモアを愛用しています。平成十九年に、家内が倒れて都立墨東病院に入院しましたが、経過は非常に良好で、思った以上に回復が早く、一か月の入院で家に帰ることができました。

と威力を再確認しました。長男はサナモアに助けられました。藤田先生の誠意には、感謝の思いでいっぱい。今、早急に社会全体が、太陽

これもサナモアを続けていたおかげです。これからも、夫婦で、毎日サナモアを使い続けます。本当にありがとうございます。

※

(宇都宮正範 記)

サナモア体験記募集

サナモア光線協会では、皆様からの体験記を募集しております。なお掲載させて頂いた方には、薄謝を贈呈致します。

サナモア体験記の投稿について、メールでの募集も開始いたしました。下記のアドレスまで、お気軽にご投稿をお願い申し上げます。

メールアドレス：sanamore@hr.catv.ne.jp



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。

サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、

一、季刊紙、「健康と光線」の発行
二、サナモア光線治療師の募集と育成。
の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。

また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会TEL(03) 三七九三―五二八二
三七二二―五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)